

協会 トン部 海コンドライバー 高齢化加速

平均50歳 20年後存続危機

関東1都7県の各トラック協会、海コンテナ部会で組織する関東トラック協会海上コンテナ部会は3日、海上コンテナセミトレーラーの運転者の年齢別在籍者人数などの2018年度調査結果を発表した。それによると、海コンドライバーの平均年齢は50歳と13年度に比べて3・2歳上昇。30代のドライバーの割合は9・6%に半減したのに対し、50代は36・3%に増加しており、高齢化が進んでいる。関ト協海コン部会は「20年後には、海コン輸送業自体の存続が危ぶまれる」と危機感を示している。

調査は1都7県の各ト協の海コン部会員事業者を対象に実施。回答店舗数は201店社。海コン車両運転者の在籍者数は3133人(19年3月31日時点)。

18年度調査では、海コンドライバーの最年少は22歳、最高齢は78歳だった。厚生労働省の調査によると、道路貨物運送業の平均年齢は大型で48・6歳、中型で45・9歳。海コンドライバーの高齢化はトラック産業全体を上回るペースで進んでいる。

■海上コンテナセミトレーラー運転者 年齢別割合の推移

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
20歳代	2.4%	1.9%	2.2%	2.8%	3.5%	2.1%
30歳代	17.2%	15.9%	14.3%	12.8%	10.2%	9.6%
40歳代	43.8%	44.1%	40.2%	39.7%	38.2%	37.1%
50歳代	23.9%	25.6%	28.4%	31.3%	34.2%	36.3%
60歳代	12.3%	11.9%	14.1%	12.3%	12.9%	12.7%
70歳代	0.4%	0.7%	0.7%	0.9%	1.1%	2.3%

出所) 関東トラック協会海上コンテナ部会資料

る上、新たに就業するドライバーも少ないため世代交代が進んでいない点を指摘している。

これに対して、50代の割合は増している。13年度調査で43・8%を占めた40代が、現在は50代に移行しているという。定年を迎える60代の割合は変わらない。

ところが、18年度は70代の割合が微増となった。若手の減少をカバーするため、引退時期を遅らせるドライバーが出る可能性があるという。最も人数が集中する40代が引退を考え始めるのは10-20年後。それまでに海コンドライバーの減少に歯止めをかけるためにも、関ト協海コン部会は「東京港の長時間待機問題の解消は必要不可欠」と訴えている。

30代、40代の割合の減少が顕著になっている。背景として、関ト協海コン部会は20代の割合が低く、30代が減少傾向であるところ、引退時期を遅らせるドライバーが出る可能性があるという。定年を迎える60代の割合は変わらない。